

牛マイコプラズマ乳房炎に注意しましょう

中丹家畜衛生情報（No.29-5） 平成29年5月発行

牛マイコプラズマ乳房炎とは

原因はマイコプラズマという微生物で、細菌より小さく、ウイルスより大きい病原体です。牛では乳房炎のほか、肺炎や関節炎の原因となります。

感染牛の乳汁に汚染した搾乳器具や牛床を介して、乳頭口から感染することで乳房炎を起こします。

また、肺炎から乳房炎に移行する場合もあるとされています。

特 徴

突然発熱し泌乳停止に至るような強い症状の急性乳房炎や、慢性乳房炎、また症状をほとんど示さない場合もあります。

典型的なものでは、乳房炎の発赤腫脹や硬結がみられるものが多く、乳汁はブツが多く水っぽいのが特徴です。

対 策

抗生物質による治療が可能ですが、発症牛の多くは治癒困難で、再発しやすく、他の牛への感染源ともなるため、状況により淘汰を検討することもあります。

農場内でまん延を防ぐためには、感染牛の隔離飼育や、搾乳手順の見直し、器具の点検を実施する必要があります。

マイコプラズマは、一般の細菌より発育が遅く、検査には乳中のマイコプラズマを増やし、性状検査や遺伝子検査などを行います。

一般の細菌よりも日数がかかり、2～3日でマイコプラズマの発育を認める場合もありますが、最終判定まで通常7～10日間かかります。

疑うような症状があった場合、診療獣医師や家畜保健衛生所にご相談ください。